

町政座談会（中野地区）

日 時 令和 6 年 1 月 2 1 日（火）
1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0
場 所 中野公民館

1 . 町長あいさつ

皆さん、こんばんは。あいさつですが、せっかくの町政座談会ですので、私の思いもしゃべらせていただいて、30分くらい最初にしゃべらせてください。その後、教育長が少ししゃべって、皆さんとの意見交換会にしようと思います。

お陰様を持ちまして町長に就任させていただきまして、年も越えて3ヶ月まだ経たない中です。町長になって宙に浮いたような感じというか、地に足が付かないような日々が続いていましたが、年末年始に9連休しっかり休めまして、年が明けて連休も続いておりますので、日常を取り戻せた感じがしています。

町長という立場になりまして一番感じたのは、日常がないという中で、今までは町民であって、議員であって、皆さんと同じ生活をしながら、地に足をつけて物事を見ていたところが、それが無くなった途端、常に正しい判断ができるのか、皆さんの思いに寄り添えているのかというところがありました。

12月議会も過ぎまして、25日から漆谷議員さんの一般質問が、ケーブルテレビの再放送であります。非常にそういう意味では、議員さんのおっしゃることは、もっともです。皆さんの代表ですし、決して間違っていることは言われない。それに対して、しっかり期待に応えたいんですが、なかなかできない部分もありながら。やっぱり議員さんというのは大事だし。立場が変わって、今ちょうど予算の編成時期です。私が何かしたいという思いもありますが、せっかくするなら、議員さんからも提案があったこと、皆さんから提案があったことが一番いいと思いつつ、過ごしています。

立場が変わりましてという話の中で、12月議会でも漆谷議員さんから、日本一の子育て村をどうするかという質問で、看板がくすんできているとありました。それで、1月に臨時議会を開きまして、矢上の香梅苑の横にあります屋根付き多目的施設の塗装が傷んでいて、今後どうするかということで、修繕のための調査費を経常しました。それを聞かれた方が、あそこを通る度にあれがずっと気になっとなんだと言われまして。やっぱり皆さんは町のもの、自分たちが使うこの施設もそうです。そういう見方をして、ちゃんと手入れしないとダメだろうとか、いろいろな思いがあるんだと思います。

町側にききますと、以外とそこが見えなくなります。改めて、日本一の子育て村の看板を見ても、くすんでいるな、汚くなっているなとか、ちゃんとそういうのを見て直すべきときには直す。タイミング良く修繕していくということで、自分たちのものとして見なければいけないと思いました。

今後のお話をする前に、町政座談会の表紙に町長への手紙というものをつけております。極力、皆さんの意見を聞ける場を増やしますということで、ご案内しています。12月の広報に、ちょっと気がつきにくかったかもしれませんが、町長室に直接届くFAXの番号と、役場の玄関の入り口に意見箱という箱が新しくなりました。どうぞ使ってくださいと言いましたが、FAXも一回も鳴りませんし、意見箱

に意見が入っているわけでもありませんでした。皆さんがどうかじゃなくて、今の時代にFAXを使うことはそうそうないですし、手紙を書いてわざわざ役場まで出しに行くんだったら直接ものを言った方が早いのもかもしれません。

そういう意味で、今後、ちょっと手直しはしたいんですが、今回の町政座談会のために、今こうやってQRコードをつけています。これを読み取っていただければ、私に直接メールが来る仕組みになっています。私自身の姿勢として、匿名だろうと、わざわざ何か一言でも伝えたいという思いがあるんだということに、しっかり応えたいので。名前も折り返しの連絡先も任意にしています。入れてなくてもできます。ただし、システム上、タイトルだけは書いてくださいということで、「あ」でも「え」でも何でもいいんです。一言、打っていただいて思いを書いていただければいいようになっていますので、ぜひ活用してください。

先日、矢上で町政座談会がありまして、たぶん50人くらいで、職員さんも20人くらいおられたんですが、終わってから3通ほどお手紙が来ました。こういうものは、いろんなチラシとか100枚配って、4、5枚反応があればいいという思いでやっています。だいたい世の中はそういうものらしいです。5%くらいなので、50人くらいで3人いただけただけでもありがたいと思っています。時期が過ぎても、試していただければ、使えると思います。2月の頭まで町政座談会をしていますので、今日気がついたことでもいいですし、話を聞いて何日か経って気がついたことでも大丈夫ですので、伝えていただければと思います。

この後は、座って話をさせてください。資料に今後取り組んでいくこと、取り組みたいことを入れています。本来ですと、町の財政が厳しいです。人口が減っていますということを、きちんと皆さんに示すために、数字で出すべきところもあるんだと思います。ただ、ご存知のとおり大型投資が続いているので楽なわけではないです。財政的には厳しいのは、皆さんが思っているとおりだと思います。

人口についても出したかったんですが、以外と衝撃的な数字なので、出すとどうかなというところがあります。12月議会でも小中学校の統廃合の話をしたときに、唐突だと言われたんですが。

若干、簡単な数字で言いますと、今の小学生を中学生は、だいたい一学年70人おられます。ですので、全体で650人くらいです。その次に、数年後に小学生になる今の保育所の子どもたちですが、0歳から6歳は300人です。ですので、一学年50人くらいに減っています。最近の毎年生まれるお子さんは40人くらいです。今年度は、12月までに28人だったので、たぶん担当課に聞けば、母子手帳の発行で、だいたい分かるんだと思いますが、40人いるかいなかです。この話を先に出すと、小中学校をどうしようかという話になると、当然、将来を見れば、中学校一つ、小学校一つでいいだろうという数字になってしまうので。今後、Uターンがあったり、Iターンがあったりして、例年増えていきます。その数字は分からないので、まずそういう状況の中でどうしていくかという話をさせてください。

それで、取り組みたいことと書いてありますが、今の現状、町長の立場でやっている仕事は、今年の仕事始めのときに職員の皆さんにも話をしたんですが、役場として年は変わりますが、大事なのは年度ですということで、この1月から3月は、今年度の仕事をきちんとまっししょう。その上で、来年度の準備をきちんとしていまっしょうということで、今は大型事業の期限内の完成を目指しています。

道の駅であるとか、中学校はだいが見通しがついていると思います。来年度の準

備を、今していますので、取り組みたいことということで、予算として必ずしも来年度に反映できるわけじゃないかもしれませんが、再来年かもしれませんが、来年度中に考えないといけない、前に進めなければいけないと思っていることを書いています。

先ほど言いましたとおり、お子さんの人数が減るから教育をどうするかという意味で、小中学校の統廃合は必要ですが、一方で、今ある学校の改修がすべて終わって、何もしなくてもよければ違うんですが、大部分が修繕や建て替えを迎えてきている学校です。そういう意味で、統廃合は避けられないと思っています。

その中で、単なる数合わせではなくて、地域との関わりであるとか、その中で子どもたちが、どういう学びをするのが一番いいのかを考えながらやりたいと思っています。必然的に、児童クラブや給食センターをどうするのかということも併せて考えていかないといけないと思っています。これを一番最初に書いてますが、次に書いてある行財政改革も、今、副町長を中心にプロジェクトチームとして役場の中で横断的な組織をつくって進めている最中です。

公共施設も人口が減ってくる中で維持をする。何度もお話をするんですが、建物がきれいで維持費だけで済むなら、考える余地はたくさんあると思いますが、基本的に建物もすべて古くなっているんで、建て替えを含めた検討となると、どうしても統廃合は避けられないところがあります。

自治会館を書いているのは、古くなったからという意味よりは、今は地域コミュニティの再編ということで、例えば、井原は一つの自治会にされた。そういう進み具合に応じて、自治会館というのは必然的に必要なくなってくる。そういう場所もあるかと思います。斎場についても、3カ所が必要かどうかということも考えていかなければいけないと思います。

一方で、何かをなくしますばかりではなくて、必要がなくなった建物で、古いけど、すぐに壊す余裕があるわけではないです。そうすると、その施設の違う活用策がないかと考えないといけないと思っています。他の町の事例ですが、学校が廃校になったときに、そこに企業を誘致するとか、工場のような形で野菜をつくる仕組みとつくるとか。邑南町として、遊休施設をどのような活用があって新たな住民サービスができるか、産業振興につなげることができるかを、施設の統廃合と一緒に考えていければと思っています。

住宅の話も少しあります。皆さんのイメージがどうか分かりませんが、邑南町は住む場所がないです。病院だとか、結婚だとかで、皆さん住む場所を探しておられます。おかしい話で、空き家はたくさんあります。町営住宅もたくさん空いています。だけど、住むところがない。それは、公営住宅には基準があって所得の関係で、入れる方が決まっています。これについては、少し試験的にそういう制限をなくして、一定年数が経って補助金などが終わったものについては、誰でもというか、ある程度の条件はつけないといけないかもしれませんが、今の基準でなく入れるような形で、運用を見直すことができないかと考えればと思っています。特に若い人たちは、ああして住む場所や宅地がないということもありますので、その辺りの対策を空き家活用も含めてできればと思っています。

皆さんの興味のあるところで産業振興も常に出てきます。基本的には町内の経済循環をとという思いがあって、それに対しては、おおなんさくらカードや商工会の商品券を使った支援策や対策ができれば一番いいかなと思っています。その思いは、商工会のさくらカードとか商品券であれば、基本的には町内で使うしかないという

言い方は変ですが、町内で使っていただけるということが一番だと思うので、さくらカードの活用は、今後、考えていきたいと思っています。商工会中心で活用してもらいたいということで、二番目にも書いてあります。

農業関係は、去年は特に暑さ対策を言われました。今、米が高くなって野菜も高くなって、買う方も大変なんですけど、つくる方にとってはいいかなと思ったら、これだけ米が高くて野菜も高いけど、皆さんの中で来年は米を増やそうとか、ちょっと野菜をつくってみようかなとか、そういう雰囲気はほぼないと思いますし、聞かないです。せっかくのチャンスなので、少し後押しをする形が取れればと思っています。

一方で、きちんとしたことをすれば暑さ対策もなるんですが、そこをお知らせする場面が少ないので、営農情報の提供など、ケーブルテレビをもっと活用できればと思います。元々は、建物を建てる補助金やケーブルテレビもそうなんですけど、農村対策とか、農業対策ということで、農農業関係の予算がたくさん使われています。そういう意味で、きちんと農業関係、産業対策に使うことによって、今後も次なる更新が必要なときにはそういう予算が使えるような仕組みにしていきたいと思っています。

今、町内で一番問題なのは、いくら頑張ろうとまず働く人がいないと言われます。企業誘致を頑張ればいいかなともっていますが、今、江津は比較的企業が来られて、工業用地が足りないの、県で造成をされると聞きます。いろいろな面で、浜田市とか江津市と邑南町が一緒になって観光対策とか、産業振興ができればいいと思うんですが、町内の企業でさえ従業員が確保できないという状況で、企業誘致をしたとしても取り合いになるだけという思いがあります。

それで、まずは、地元の企業なり、事業所できちんと働く人を確保できるような努力をしていきたいと思っています。その一つが、資格を取得する支援を考えなきゃいけない。もう一つは、外国人の方もかなり来ておられます。そういうバックアップもしなきゃいけないと思っています。

その下に二つ、矢上高校の卒業生、石見養護学校の卒業生の話と、邑南町を支える人材の育成と奨学金の見直しと書いています。高校振興で、矢上高校にはたくさんの補助金を出して応援しています。石見養護学校も地元にある県立学校ということで関わりを持っています。今までは、県外からの生徒さんも来られて定員を満たしていますという話はしていると思います。その卒業生がどこに行っているかという話はあまりしたことがないと思います。せっかく縁があって来ていただいたので、専門学校、大学などを出て、もしくは直接、町内で就職していただける仕組みをつくりたい。その仕組みをつくる中で、邑南町で働くと、どういう人生が過ごせるのかというも示していかなければいけないと思っています。そういう中で、邑南町で働くことを選んでもらえる仕組みづくりや、ふるさと教育もそうなので、そういうところから考えていければと思っています。

日本一の子育て村をして、UターンとかIターンとかたくさん来ていただいて、非常に子育てはしやすかったという話は聞きます。それは金銭的な面も含めて、保育所、小学校、中学校と。ただ高校になって大学に進むときには、金銭的な負担が地方は特に大きいです。そういうところで、奨学金も一つの考え方だと思いますし、ここから先には皆さんとの議論になると思いますが、大学とか、専門学校を出なければ取れない資格もある一方で、今必ずしもそれが全ての人生ではないかという思いを持っています。この町で、高校を出てすぐに働く、働きながらこの町で必要な

資格を取るとか、そういうことを応援していくということです。一つの考え方として認めていただければ、保護者として県外に送り出す必要はあまりない。その金銭的な負担はなくなるかと思います。本当にそれがいいかどうか分かりませんが、今は大学進学率がすごく高くなって、もっと高めましょうという全国的な動きがあって、それはそのまま東京に引っ張られる。大学がある県に行くということなので、大学のない島根にとっては不利な話かと思います。なので、この町でどうすれば生活できて、どういう資格を取っていけば皆さんの役に立つかというのを示して、それを応援するという必要かと思います。これはまた教育委員会とも議論しながら進めていければと思っています。

書いてあるとおりなので飛ばさせていただきます。保健医療福祉の話が書いてあります。日本一の子育て村をどうするのか、これは賛否両論あったんだと思います。ここに日本一の子育て村のあり方と福祉施設のあり方と書いています。捉え方はそれぞれあるかと思いますが、改めてどうやってこの町で子育てしてもらうのが一番いいのか、皆さんにどうすれば協力してもらえるのかということをは話し合えればと思います。特に、若い世代は子育て世代でありつつ、福祉施設等の担い手でもあります。子育てがしっかりできなければ、働くこともできない。それはそのまま医療福祉施設の働く人がいない、働きに来てもらえない、人手が足りないということにつながるの、子育てと福祉施設、医療福祉のあり方はつながる部分が多いと思います。それぞれ別々で話し合いながら、最終的には総合的にどうあるべきかということをは話し合って、それを皆さんに示す中で、子育て支援を今後していければと思います。

それから、地域の見守り活動ということで、12月議会でも辰田議員さんから、町の公用車に「邑南町」と付けるべきだと言われたんです。当たり前話なんです。今、公用車もいろいろな課が一緒に使っているの、町の表示がある方がいい時と、ない方がいい時があるということだったので。じゃあ、逆に安全パトロールのために使うのであれば、そういうマグネットをつかって、それを貼って出られる人が出ればいいのかという思いもあります。

地域の見守りは、中野は、にこ丸くんはかなり協力していただいているところもあると思います。町としては郵便局にも協力を求めています。お願いしている立場の町が何もしないというのは好ましくないの、町としてできることを考えていきたいと思っています。

もう一つ、数字を示してなかったんですが、12月議会でも秋くらいからすごく話題になったのは、邑南町の社協がデイサービスとか訪問看護をやめるということです、今年の4月から。皆さんからすると、高齢者が増えていてそういう福祉サービスがどんどん必要なのに、何で辞めるんだということがあると思います。ただ実際には、町の高齢化率は45%でほとんど変わっていないです。人口は減っています。65歳以上の人口は徐々に減っているのが現実です。

そういう中で、先ほど言った福祉をどうするかということも考えないといけないですし、そう言いながらも、65歳以上の人について、高齢者の定義をどうするかということをは今、国でも話し合っているようです。高齢者と言うべきかどうかは別にして、いつまでもお元気で、できれば地域の担い手なり、職場の担い手であってほしいということもあります。人生が長くなる中で、どう生きて、どう暮らしていくか、どういう生きがいを持つかということで、その一つが老人クラブや、一人暮らし世帯の方だと思います。今でも老人クラブの方には補助金を出しています。一

人暮らし世帯の方も会があって活動されています。そういうところにもしっかり応援しながら進めていければと思います。

ちょっと聞き慣れない言葉で、100歳大学と書いてあります。12月議会で提案がありました。今、自治体によっては、人生100年の時代なので、仕事をリタイアした後に、これからの人生をどう考える、どう過ごすかということで、皆さんと一緒に学びましょうと、そういう場が100歳大学です。言葉として100歳大学ですが、邑南町としたら、老人クラブであるとか、公民館活動の中でほぼ同じことをしています。それを少しまとめて、つながりを深めることができればと思います。

もう一つ書いているのが、邑南町のいいところは、一人当たりの医療費が少ないです。県内の他の自治体に比べると、皆さん一人一人の病院に罹る医療費が少ないです。昔は、松江や出雲とか、病院がたくさんあるところの人は病院に行く機会やチャンスが多いので、いつでも受診できるので、医療費が低いと言われていました。山間部は不利だと言われていましたが、邑南町は県内でも低い方です。その要因は、邑智病院が近くにある、診療所が守られているということ。それから保健師さんの活動でいろいろな検診の受診率が高いです。

ただ一方で、人間ドックは40歳50歳の受診率はちょっと低いです。国保の加入者も、20歳代は検診を受ける機会がないです。そのあたりをしっかりとフォローしながら、町としていつまでも皆さんが元気で医療費が少なく、大きな病気をしないようにバックアップできればと思っています。

あとは、二つほど大きな項目が書いてあります。地域活動の話で部活動地域移行の準備と書いてあります。議員から町長の立場になりまして、何となく分かったのが、町の動きが遅いとか、何やっているんだとか、よくあるんですが、部活動の地域移行も同じです。何でもっと早くしないのかと。この言葉は、皆さん早くから聞いています。

ただ、町としては、国が計画をつくって、県が計画をつくって、やっと動けるという状態です。県の計画もこの1月にできたばかりです。ただ2030年だと思えますが、国スポを島根でやるまでには、これをしまししょうと。最後が決まっています。そうすると準備する期間は短いので、計画をつくって指導者を育成して、必要な環境整備をしてということと並行してしなければいけないと思っています。動きは遅いですが、動き出したら早くきちんとできるようにやっていきたいと思っています。

最後に、そのほかを書いています。私の思いとかいろいろなことです。一つは、皆さんのご理解を得ながら、役場職員の副業をもっと進めていければと思っています。今まで私自身もあまり知らなかったんですが、公務員は副業をしてはいけないという思いでしたが、手続きをきちんとして許可を受ければ、してもいいというのが現状だそうです。地域で、会社の手手が足りないというところに職員が行くのは無理ですが、地域行事やできる範囲で、地域で人手が足りないとか。ちょっと極端かもしれませんが、児童クラブで足りないとか、そういう場所で許可が受けられる範囲であれば、職員の方にそういうことをしていただきたいと思っています。

それは書いてあるとおり、役場の中でも人の仕事に関心を持ってくださいと言っています。縦割りだけど、事務を効率的に進めるためであるとか、それぞれの能力の向上のため、まず人の仕事に関心を持っていただきたい。併せて、地域も関心を持っていただきたい。それがそのまま事務の効率化につながって、そのメリットは

また町民の皆さんに返せればという思いがあります。なので、役場で仕事をして、また地域に出て金儲けをして、そがぁに稼ぎたいんかとか言わんでください。皆さんのためにということで、副業が進められればと思います。あくまでも、ルールに基づいて基準の範囲内です。

併せまして、今日、皆さんの前で町政座談会をさせていただいています。時期がこの時期になって大変申し訳ないですし、一番寒いときですけど、来年度は、もうちょっといい時期を見ながらと思います。定期的に町政座談会を開催できればと、毎年、公民館単位できちんとしていければと思います。以前は女性の会ということもしていました。女性という括りがいいかどうか分かりませんが、皆さんの声を聞く場面として、女性であるとか、地域であるとか、仕事であるとかの括りの中で、こういう会ができればと思います。

こういう会を開く目的は、皆さんの声が聞きたいからですというのが一つです。私自身もやはり、皆さんの声を聞きながら改めなければいけないところは、改めなければいけないし、見える部分が変わってくるので、できるだけこういう会を開きたい。

もう一つは、今日もたくさん来ていただいています。たぶん総務課長とか副町長、私、教育長、職員を合わせれば、ほぼ来た方が分かるんだと思いますが、たまに、誰だろうという方がいます。興味をもって出てきてもらえます。町として、いろいろな審議会があったり計画を立てたりするときや、皆さんもそうです、地域の役をするときに同じ人にしか頼めないし、同じ人ばかりになるんだけど、たまに来てみようかなという方があれば。人材発掘というは大変ですが、地域との繋がりが仕事の関係で持てない方もおられます。時間帯によっては出られない方もいます。いろいろな会を開くことによって、お互い人を知ることで新たな人材発掘、今後の地域の担い手等を探し出せばいいかなと。また、こちらからすれば探し出せる。皆さん側からすれば、新たな活躍の場をつくれるということになればいいと思っています。

先ほども言いましたが、自治体間での連携も今後進めながら、産業振興、三江線も100キロ以上には三次口までかかりますが、それぞれがトラックをしたり、いろいろな活動をしているんですが、つなげるともっといいことができるかなと思っています。財政が厳しくて、人が少なくて大変ですとは言っていますが、それがカバーできることがあれば、自治体間で連携するとか、どんどん進めていければと思っています。

今後、今年度の事業の完成に向けて、今、頑張っていますという話をしていますが、霧の湯については4月の開業に向けて準備を進めています。中学校についても、校庭整備などは、若干、新学期にかかりますが、形がしっかり見えてくると思いますし、お子さんたちも今まで通りの場所で、中学校の活動ができると思います。病院についても、今年中にはきちんとした形で、新館と今まで使っていた場所の改修が済むんだと思います。道の駅についても、出来る限り早く準備ができればと思います。そうやって大型投資が完成すれば、それをいかに使うかということで、舵を切りながら町政運営を進めていきたいと思っています。

若干長くなりましたが、まずは私からのお話は以上とさせていただきます。続いて、教育長から少し話をして、皆さんのご意見が聞ければと思います。よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは。教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいたします。私から、一点、お手元に色刷りの資料を用意させていただきましたので、提案も含めてお話をさせていただきたいと思っております。

まずもって、日頃より学校活動、子どもの安全安心、安全パトロールを含めまして、ご支援ご協力を。また、公民館活動にも積極的にご参加いただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

私から、コミュニティスクールのことについて、お話をさせていただきます。これは、令和8年度の設立を目指して、1年掛けて皆さんと協議させていただきながら、地域に合った制度を作り上げていきたいという思いでいます。

これは、一般的な資料ですが、全面が色塗りの方を表にさせていただいて、左の真ん中あたりに、コミュニティスクールとは学校運営協議会を導入した学校だと言っています。学校運営協議会とは一体何だろうということですが、基本的に邑南町は学校と地域の関係性は、本当にありがたいことに良好な関係の元に、特に子どもたちを中心に据えて、地域の皆さんが連携協力していただいて、教育課程を進めさせていただいております。それをしっかりと将来につなぐ意味で、しっかりとした制度をつくっていかうと。その制度が、この協議会であると、まずご理解いただければと思います。決して新たなものではなく、少し整理させていただくということが一番だと思っています。

ただ、大きく変わると言いますか、新たなものは、その右側の四角囲いで3つに分けて書いていますが、その一番上です。学校の校長先生が毎年、学校運営に関する方針を出されます。それを地域が認めていくという作業が、新規になっております。今までは、学校の校長先生の考えの元に、それを実現するために、地域の皆さんにご支援ご協力をいただくというのが、本来の姿であったわけです。まず、その方針自体を地域の皆さんと共に考えて、最後は承認していくというところで、協働という言葉が合ってくるかと思えます。それを先ほど言いました学校運営協議会の中で行っていくということでございます。

邑南町においては、以前300人委員会、1000人委員会ということで地域の思いを共有させていただきました。それを学校と共に、同じ思いや認識で活動していくというのが一つ大きな売りになっていくと思っております。

裏面をご覧ください。左半分のところで四角囲みで2つ示させていただいております。学校がコミュニティスクールを導入するメリットとなっています。これは、文科省から以前は、学校教育は学校完結型の教育でありました。それではもう限界があるということで、地域と共にある学校づくりを学校がしていくという方針に変わっております。一方、二段目は、今度は地域目線に立って、学校を核とした地域づくりを併せて行っていかうという思いで、このメリットということを示しております。

最後に、邑南町としては、よくあるのが、各学校毎に運営協議会をつくっていくとありますが、邑南町は特徴として、中学校区でいろいろな思いや願いを共通にした方がいいだろうと、その協議会を学校区でつくり上げていきながら、それを小学校にも生かしていくというような方法で、今後一年をかけてそのシステムをつくりあげていきたいと思っております。いずれにしても、これは地域の皆さんの協力なしでは運営できません。また、いろいろな意見をいただく場面を設定させていただ

きたいと思いますので、その際は、よろしくお願いいたします。以上でございます。

3．意見交換

- 大屋町長 皆さんからご意見を聞かせていただく前に、〇〇さんから事前に意見をいただいていますので、最初に話をした中で足りなかった部分も含めて少ししゃべらせてください。山陰中央新報等の対談の中で、正月の新聞だと思うんです。楽しい地方をつくるとか、若い人とか女性に選ばれなきゃダメだよ。新しい価値観が必要じゃないかという話があったけど、どう思うかを書いてあって、人口減少対策についてもふれられています。

先ほど、少し話をしましたが、都会に出て頑張るのがいいのではなく、この町で生きていける道筋をまずちゃんと示さなければいけないのかなと、私たち大人が、町がと思っています。

その中でまず、選んでもらうのも一つですし、町として、親として、住民として、若い人たちやこの町で育った人たちを必要としていますよ。皆さんの力が必要ですと。子どもたちにとってそれが嬉しいのか、負担なのかは分からないところはありますが、まずそういうことを示して、頼られているということで、この町に住んでもいいという思いにつながれば、一番いいと。そういう議論もしなければと思っています。

ただ一方で、田舎は楽しくないとか、わくわく感がないとか、いろいろあります。邑智病院の仕事初め式のときに少し話をしたんですが、そう言いながらも最低限、住みやすい中で、町としてのインフラ整備も必要です。ネットがつながるのも大事だと思います。病院も学校も必要だし、生活の中でコンビニがあるというのも結構、大事だと思っています。町内の経済対策と言いながらも、今はコンビニが一つのインフラで、必要なものになっています。

人口3千人くらいでコンビニが一つ成り立つそうです。そうすると、邑南町の中に2つあって、Yショップが2軒、3軒あれば、ほぼ、いっぱいいっぱいなんだと思います。人口対策という意味では、そういうお店が減らないように、利便性が今のままであるということのも人口対策に必要なことだと思います。

今後改めて、数字等を示しながら、学校の統廃合の中で、今後の人口推移も出さなければならぬと思っています。総合振興計画という町の計画を、今、作り直している最中です。そういう中で、しっかり数字が出てくるので、それを見ながら、皆さんと共に、今後どうすればいいか、何をすれば一番いいのかという話をしなきゃいけないと思っています。

ふるさと納税の話も書いてあります。個人の皆さんからいただくふるさと納税と、企業からしていただける企業版のふるさと納税があります。どちらも、少し頑張らなきゃいけない状況です。ふるさと納税自体は、実は邑南町は年々減っています。

委託している会社がありますが、その会社の努力もあるかどうかと思っています。手数料を払っている以上は、一定の努力をしていただきたい。努力が充分でないのであれば、見直すか考えなきゃいけない。努力というのは、ふるさと納税を集めることもあるんですが、一方で、ふるさと納税の商品となるものを開発するというのも仕事の一つです。それを町がするのか、委託を受けた会社がするのかということもあります。その辺も見直しながら、どこがやればいいのかというこ

とがあるので。改めて、ふるさと納税の目的の一つはお金が入るということもありますが、町内の商品開発につながるという部分もあります。産業振興の部分です。そのバランスがきちんと取れなければ意味がないと思っていますので、そうなるように、どこが担っていけばいいかも含めて、考えていきたいと思います。

事業仕分けであるとか、女性の活躍の場も必要ですし、事業仕分けについても、今は予算編成の最中です。なかなか思い切って、今ある事業や、皆さんにしていることを止めますというのは難しいと思います。今後、町長ヒアリングの中で、私の責任としてある程度、事業を見直させていただくのか、若しくは、皆さんの力を借りるのかということがありますが、まず来年度の予算編成を進めていきたいと思います。

議員もさせていただいていたので、過去の経緯がわかっている中でできた予算もあります。そうすれば、どうすれば止められるのかということもあるので、いろいろ考えさせてください。財政事業等を思えば、毎年皆さんの自治会とか家計等と一緒に。貯金を最低限切り崩すことがなくて、来年入ってくる収入で事業が出来るのがベストですので、極力それに近づける努力をさせてください。

それと、徳島県神山町という光ケーブル網を構築して、高速インターネットの整備をしてIT企業にたくさん来てもらって、町おこしをしてところがあります。美郷や大田市も誘致企業はそういう会社が多いです。ただ残念ながらそういう会社は3、4人だったり、10人だったり、地元の人を雇うほどではないとかがあるので、どうかと思ったんですが、最初に話したとおり、何十人も雇ってくれる、何百人も雇ってくれる会社に来てもらっても、この町には働く人がいないと思えば、そういう形でこの町で何人か来て、この町で仕事をしてもらえる会社というのもあり得るのかなと思います。

現実、邑南町のインターネットの環境は決して悪いわけではないです。十分とは言いきれないけども、悪いわけじゃない。決してそんなに早くはないけど、利用者が少ないので遅くはない。人口が少なくてもいい面もあるということです。ただ人口が少ないので、そういう投資がしにくいんですが、若い子でゲームをする人たちに聞いても、そんなに不自由はないと言われます。なので、今ある中で何ができるかをまず考えさせてもらえればと思います。

いろいろなご意見をいただきましたら、また参考にさせていただければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、意見交換に移ります。皆さんからご意見やご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきましたら、マイクをお持ちしますので、少しお待ちいただきまして、お一人、一つずつ意見や質問をしていただければと思っています。

できるだけ多くの方に発言をいただきたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願いします。それでは、どなたからでも構いませんので、よろしくお願いします。

- 中野北区自治会の○○と言います。矢上の無縁仏のことで聞いてみたいんですけど、最近、職員の方から、無縁仏を使う基準が厳しくなりましたと聞いたんです。ただ、私が思うには、お骨の処理というか、お骨を収めるのに困る場合があると思うんです。戸籍を辿っていけば、確かに子どもさんやお孫さんがおられると思うんですが、どうなんでしょう。困られていたら、無縁仏に入れてもいいような気がするんです。お骨の時は確かに縁者がおられるかもしれませんが、無

縁仏に収めたら、もう縁がなくなるというか、他の人の骨と混ざってしまうので、もう取り出すことはできないんです。自治体によっては、骨を保管して困っておられる自治体もあるんですが、邑南町は私の知る限り、役場は預かっていないと思います。無縁仏についても、そんな厳しくせずに、困られていたらそこに入れられるようなことを考えてはどうかと思います。

- 白須副町長 ご質問ありがとうございます。副町長の白須と申します。今、受け入れの要件について詳しいことがわからないんですが、基本的には、老人クラブ連合会が管理されていまして、何らかの話し合いが持たれて、そういうふうになっているのかもしれませんが。これは、ちょっと確認してまた〇〇さんにお返しさせていただきますので、〇〇さんから関係者の方にご連絡をいただければと思います。よろしくお願いします。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。町政座談会について毎回、各地区で行ったものをまた議事録を残しておりますので、〇〇さんだけではなく、他の方にも読んでいただけるように各地区公民館に置きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【後日確認した内容】石見地域無縁仏については、町と邑南町老人クラブ連合会石見支部とが、石見地域無縁仏の取り扱いについて協定を締結している。

協定の主な内容は、１．無縁仏の塔に納骨する対象は石見地域の無縁仏とする。２．墓じまいなどの個人都合による納骨は対象としない。３．石見地域無縁仏の塔周辺の維持管理については邑南町老人クラブ連合会石見支部が行うものとする。となっており、これに沿って運用をされています。

それでは、次の方お願いいたします。

- 私は、中央自治会の〇〇と申します。お世話になります。私は今、縁があって中野の消防団の分団長をさせてもらっています。今の立ち位置になってくると、いろいろなことが気になり始めまして、消防団の人数が年々、減っていきまして、今回いただいたしおりを見ると、入団１２人に対して、退団が３２人という。ずいぶん大きな差があるなと思いました。

今年は、退団者が２４人で、入団者が５名です。気になって去年と一昨年のしおりも見たところ、令和５年に退団した人が２８人で、入団が６人。その前の年の令和４年は、退団が３２人、入団が１２人でした。比率がずっと大きくて、このままでいくと消防団の人数が少なくなっていくんですが、これは歯止めがきかないと思うんですが、多少でも地域の人に消防団のメンバーにこういうメンバーがいるということを知っていただきたくて。

数年前から、しおりを団員全員に行き渡るように製本したものをもらっていたんですが、数年前から中野分団に５部とか、そういうふうに人数分、しおりをつくってもらってなくて。出初式が終わった後に若い団員に配りたいんだけど、配る枚数がないので、配らずにという恰好だったんです。

いろいろ考えるのに、もし１２月の常会で配る資料の中に、この出初式のしおりを家の軒数分入れていただくと、町民の方も関心を持ってくれるかなという気持ちもあります。要望というか、消防団のことを町民一人一人が考えてもらえるように、何か工夫してもらえたらと思っています。そうなったときに各家に、しおりが一部ずつ入ると嬉しいかなと思いました。

今回は、邑南町のホームページでしおりがスマホで見られるようにしてあったので、そういう案内は団員にはしたんですが、そういった誰でも見られる紙の資

料が町民に行き渡るといいなと思いました。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。消防団もそうですし、町としたら民生児童委員さんや、いろいろな皆さんが役をしていただくことで成り立っています。ただ、そういう役があるとかないとか、誰がやっているかさえわからなくなってきているので、そういう意味では、〇〇さんが言われたとおり、準備の都合で、うちの都合ですが、出初式のしおりを1月の常会で配らせてもらっても、新しくこういう方が入られました。こういう消防団がありますよということも必要かなと思います。

成人式の時に、今年はふるさと会でこういうものがありますというもを入れたんです。入れたら、こういうのがあるんだ、入るとは言われなくても、まず存在を知ってもらうのは大事ななだと思います。そうすると、次に声をかけた時に入ってもらえたりするので、まず、何らかの形で相談させてもらって消防団があります。こういう人たちがいます。こういう活動をしてもらっていますとか、町として、こういう役があって民生委員さんがおられますとか、いろいろな役に対して、もう少し案内をして入ってもらえたり、協力してもらえようように町としても頑張りたいと思います。

ちょっと違う話で申し訳ないんですが。先般、国の方に行って治水の関係の話を資料を建設課でつくっていただいた中で、羽須美は江の川の関係で水防団があっている協力してもらっているけど、よく考えたら、頑張ってもらいますと言っていますが、皆さん年が多いです。新しく入ってもらうことも必要だけど、松江では、門の開閉をある程度、自動ですとか、人手が少なくてもいいようにしないと間に合わないという話も出ていました。消防団にお願いせざるを得ないときには協力してもらうけど、負担なくできる方法があれば、それも町で考えて、お互い負担なくできるように頑張りたいと思います。ありがとうございます。

○ ありがとうございます。

- 大賀総務課長 他の方は。はい、どうぞ。

○ 茅場の〇〇です。中学校の安全対策について聞きたいんですが。今、12月から1月になって、夕方が明るくなってきたんですが、よく子どもを迎えに行くのに、もうちょっと前だと日没が早い時期に、体育館の方へぐると回っていますが、生徒がこちらに来るのに、明かりが全然ないんです。足元が暗いんじゃないかと子ども聞くと、暗いと言うこともあります。

もう一つ、みんなが心配しておるんですが、あそこはあつけらかんとして、誰が入ってもいいような感じで、私たちも見学に行ったときにオープンだったんですが、このへんで強盗が入ったとか、あまり聞かないですが、外部からいつなんどき、狂ったような者が入ってきたら。自由に入れるような感じになっているんですが、そういう安全対策とか、カメラの設置とかの安全対策はどのようにしているのか聞いてみたいんですが。

- 大橋教育長 ありがとうございます。足元については、今一度、現地を確認して、必要があれば策を講じて参りたいと思っております。それと、新しい中学校は、基本的に、一階部分は地域の皆さんとふれあう場面を多くつくっていかうということで、地域連携室といったところでございます。

ただ一方、〇〇さんが言われましたように、誰でも入れるような状況にもなっております。地域の方々にお入りいただくような場所は、仕切らせていただいて

少しセキュリティの強化を上げさせていただいております。併せて、カメラも設置させていただいております。それで十分かどうかというのは検証もしていきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

○ ということは、誰かが入れば、北陽警備さんとかA L S O Kとか、そういったところが駆けつけるようになっているんですか。

●大橋教育長 確認させていただきたいと思います。

○ 夜に悪い者のたまり場になっても困るので。

●大賀総務課長 はい、ありがとうございました。他の方、ございませんでしょうか。

○ ちょっと状況提供をしていただきたいんですが、石破さんが地方創生ということで、2千億円倍増して地方創生を行うということで、去年からマスコミに出ているんですが、これは邑南町としてはどのように今後進められるものなのか。今から基本構想をつくるのか、今年の4月から交付金がかかるものなのかとか、そのへんの情報でわかっている範囲で教えていただければと思います。

●白須副町長 はい、ありがとうございます。石破政権になりまして、地方創生交付金の考え方が、また充実した方向に進んでいます。これまで邑南町は、この交付金を使って、道の駅の整備、それからDXの関係の事業を。DXというのは、デジタル技術の導入等のことでございます。そういった事業を実施しております。新しい地方創生の交付金についても、基本的なデジタルな部分は継承しつつ、また新たな地域のコミュニティの活性化とか、新しい目的に応じた使い方もできると聞いています。

デジタルの関係事業につきましては、令和7年度当初予算に計上して、併せて国への手続きもした上で実施しようと思っております。ただそれ以外の、道の駅の事業などについては、現在、用途についていろいろ協議をしているところでして、直ちに令和7年度からということにはならないかもしれませんが、令和8年度以降にしっかり活用できるようにしていきたいと考えています。

○ もう一つだけ。冒頭に看板の話が出ました。こうして見るのに矢上交流センターの駐車場や、役場庁舎前の駐車場だとか、ここもなんですが、白線が全然消えております。全て一般財源になると思うので、すぐにやってくださいとか、そういうことは言えないし、非常に厳しい予算ですので、難しいかもしれませんが、そういうところも、ちょっとみずばらしい感じがするので、余裕があったときというのは、ないかもしれませんが、ご一考いただいた方がいいかと。いらんことですが、言わせてもらいました。

●大屋町長 答えは、頑張りますというのも変ですが。いつも使っていると何とも思わないんですが、違うところに行ったり、不慣れな道を走ってみると、ちゃんとセンターラインがあるとか、交差点で右折のところに入れるとか、駐車場に線があるというのは、安心感につながるし、事故の防止にもなるので。頑張りますとしか言えないんですが、できれば極力、毎回そういう話をさせていただければ、忘れずに、少しずつ進めることができるかなと思います。どうしても、申し訳ないですが、優先順位が低いような感じで立場が変わってと言ったんですが、ここで凌いでしまうと、忘れてしまうので。ちゃんと回答としてはお返ししますが、どこの課が担当して、どういうふうにするかも確認して少しずつ進めさせてください。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方、ございませんでしょうか。

- すみません、もう一回。今年度から環境税を我々は払うようになったんですが、
ですよね、6年度から。あれは前から森林環境税は入っていますよね。あれはど
のような使われ方ですか。

最初の頃は、積立金がかなりあると、積み立てていくんだということで私たち
も聞いていて、もうあれから何年か経ったので。どう使うのか、もう決まったの
かなと思って。そういった情報は流れてこないの、いい機会なので教えていた
だけだと思います。

- 白須副町長 森林環境譲与税の徴収が始まりまして、5年前くらいから収入とし
ては、国の方から基金等を活用してすでにいただいているところでございます。
それで、〇〇さんが言われるように、一時、各自治体が使いきれずに貯金がどん
どん増えている状況だというのが問題になったことがあったんですが、邑南町は、
しっかり毎年入ったものはできるだけ使うということで使っている自治体に含ま
れております。

使い道としては、大きく森林整備と林業事業体の支援、人材確保も含めた、そ
ういったハードとソフトの面で使っております。ハードの面で言いますと、例え
ば、余勢の木を伐採されましたよね。ああいったものも集落周辺の里山の整備事
業ということで、その財源を使って行っております。あとは、林業事業体に対し
て施整の補助金を出したりしています。あとは薪ストーブの導入とか、そういった
ものも含めています。

それから大きなところでは、作業道の整備とか、森林組合がやっておられるも
のにも補助金として交付させていただいています。それから、人災確保の面では、
町内で林業事業体に従事する新規採用の職員の方がいらっしゃったら、その方の
資機材とか、設備ですね。それから研修費とか、若干、報奨金みたいなものも、
その譲与金から支援させていただいております。

これらについては、なかなかわかりにくいと思うんですが、町の議会にも決算
資料という形で報告しておりますし、ホームページにも森林環境譲与税の使い方
で実績を毎年載せておりますので、参考にいただければと思います。

- 結局、邑南町にきたお金が、環境譲与税がまわりまわって町民全体にどのよう
な良い影響があるとか、良い結果が出せるとか、そういったことも研究してもら
って。鳥獣対策にしても、山がしっかりしておれば、実のなるものが少ないから
クマが出るとか、そういう話もありますが、それを逆手にとって、奥の方へ実の
なるものを植えてやるとか、そういった植林をするとか。少し、違った意味で使
うことも考えてもらえればと。ただ今さっき言われた使い道というのは、どこの
町村も全国でやっていると思いますので、ユニークな使い方を考えてもらって、
全員に利得がある面が一つはほしいなと思いますので、知恵を絞ってもらえれば
と思います。

- 大屋町長 今後取り組んでいくことの資料で飛ばしたんですが、産業振興の下か
ら2番目に、農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策の実施というこ
とで、〇〇さんに言ってもらったとおり、鳥獣害のイノシシの対策だとか、日当
たりの確保だとか、農地を守りながら周辺林地も一緒に整備して一体的に何かで
きないだろうかという思いがあります。ただそれを条件につけるのはどうだろう
かと担当課とも話しているんですが、おっしゃる形に使えば一番いいかなと思
っています。水路の管理や出手の管理など、そういうことが一緒にできるような
結果として周辺の林地とか山の整備をしたら農地も守られるようになるというよ

うに、試験的にでも、モデル地域ということでもいいので、できればいいかなと担当課とは相談しています。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はございませんでしょうか。

- あまり意見が出ないようですので、いらんことですが言わせてもらいます。中野の〇〇と言います。町内での、町民の購買力なんです、以前、何かで見たときに地域によってかなり違いがあって、羽須美地域だと20数パーセントしか購買力がなかったと。ということは、あとの70数パーセントは、町外での購買ということになります。

私の周りを見ても、だんだん個人商店はなくなって、石見地域で言いますと、アベル、プラザ、この2つが頑張っていたんですが。買い物とすれば、ちょっと出れば、ゆめタウンとかあります。そういったところで、何万円という買い物をして帰ってくる。地元で落とす金がまたどんどん減ってくる。益々、地元が衰退していく。そういう悪循環がずっとあると思うんです。

そういったものに対処するために、何か手立てはないか。例えば以前あったように、一戸当たり3万円の商品券とか、そういうものを出して、2千円分を買ってもらったら、千円の商品券が使える。半分は商品券が使えるというようにすれば、例えば6万円買ってもらったら、3万円が使えるというような恰好になって、町内での消費がかなり増えてくると思うんです。財政難ではあるんですが、そういったものも考えいただいて、町内での購買力を上げる方法を考えてもらえたらどうかと思います。

それと、アグリサポートのＩターン、Ｕターンの方が町内に入っているいろいろな活動していただいているんですが、この任期が終わったときに、どのくらい町内に残っていただいているのか。今は、神紅のハウスが至るところで建っておりますが、果たして、その人数でまわっていくのかどうかと。当然、町内の方も入っていただければ言うことないんですが、そういったところもわからないので。これでいいのだろうか、何人残ってもらえるのだろうか。せっかく4年や5年で技術を身につけられても、その方がまた帰っていかれたら、また一から入った人がやっていかなければいけないということで、非常にその辺を危惧しております。そのへんがどうなんだろうかと、ちょっと教えていただければと思います。

それと、さっき言われましたが、公式のおおなんちょうのホームページにもそういうのを設けていただければ、見る確率が高まるのではないかと思います。以上です。

- 大屋町長 いただいたご意見をホームページというのは、メールでいただいたものも含めて、載せさせていただければと思います。先ほどは、森林環境譲与税のこともあったとおり、まず町から出せる情報をもっと出しましょうという願いをしているので、それも含めてさせていただければと思います。

町内の経済対策が一番大事だと思っています。邑南町は、先ほどあったようにアベルといわみプラザがある。そこに町外資本の大きな店が来ていないのが邑南町の特徴だと思います。ドラックストアなど、そういうのがないのが邑南町の特徴で、地元資本の事業者さんが頑張っておられるというのは、しっかり支えていけないといけないし。

私自身の話ですが、普段、農業をしていて、家で朝昼晩食べて、そんなに外でご飯を食べることがなかったんですが、選挙とかいろいろあって、お昼にアベルやプラザに行くとお弁当をたくさん売っておられて、それが町内の方の生活の支

えになっているという、ちょっと違う場面も見ることができました。

しっかり支えていかないといけないという中で、おおなんさくらカードを使ってという話をしました。商品券の使い方についても言われましたが、とにかく町がお配りしたものは町内で消費してもらえる仕組みが一番大事だと思うので。

財源について約束は難しいですが、今、経済対策で補正予算があります。この度、低所得者対策ということで、国が決められたものをしましたが、それ以上のことを、邑南町は今はいしていません。どちらかと言うと、事業者支援です。それでも、少しそこに余裕があれば、ポイントを使った形など、とにかく町内の事業者支援と経済循環を重点的に、予算を使わせてもらえればと思っています。少しでも期待に応えることができるよう、町内の事業者を支えるように頑張りたいと思います。

地域おこし協力隊で神紅のブドウをつくりに来てもらっている方々は、3年の研修をして、ハウスを持たれるので、基本的には以前よりも定着率は高いと思っています。今のところ神紅の単価は維持されているので、きちんと指導されて頑張れば、販売して実績が出ます。売り上げも確保出来るので、辞めるということは、今は少ないと思っています。

町も販売の単価維持には、対策として頑張りたいと思います。ただ課題なのは、今、やっておられる方はいいんだけど、今から入る方がハウスの建設費用も高くなっていることと、販売価格が維持できなければ、リース代は高い、収入は少ないということになるので、そこはしっかりカバーできるようにやっていきたいと思います。カバーというのは、販売単価を維持するということで、売り上げがちゃんと確保できるようにしていきたいと思います。

地域おこし協力隊の方については、いろいろな形で来ていただいています、定着率については、本当に残ってもらえるのかと言われます。私が町長になってから、町職員などの面談に関わらないようにしています。私の意見で採用するかしないかが決まって、皆さんの意見が聞けないので。面接の皆さんの意見を聞きたいというのは、その人がいいかどうかもありますし、地域おこし協力隊の方については、本当にこの町で生活できるか、残ってもらって自分の力で生きていけるか。そういうところも見たいという思いがあります。

応募があっても断るのも親切かなという話をしました。この町に来てみたけど、やっぱり田舎では暮らせない。自分の力で生きていけない、辞めて帰りますというのであれば、最初からお断りするのでもいいかもしれない。きちんと自分の力で農業をするなり、何らかの仕事を見つけ出して生きていける。そうでなくても、勤めながらこの町で暮らしてもらえると確信が持てる人を採用して育てたいと思っています。そういう意味でも、地域おこし協力隊とか、神紅のアグサポ隊がこの町に根付いてもらえるように、やっていきたいと思っています。

神紅は、すごく目に付いて、皆さん感心が高いので、「こういう作業をしています」「今年はこうでした」という情報を出しながら、皆さんに心配より応援してもらえるように情報発信をしなければいけないと思っています。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございました。ほかの方はございませんでしょうか。
- 横引の。でございます。休耕田が非常に増えておって私共もぼちぼち辞めるということになれば、それをつくる者がいないという格好になるわけです。

休耕田の活用の対策として、千代田の方で聞いたところによると、町とJAと

が共同で法人みたいなものを使ってつくって、それで休耕田を活用して、稲作に転じているという話を聞いたりしたんです。雲南市の再任された市長さんも、そういったものへの対策をこれから進めていかなければいけないという話が出ておりました。どちらにしても今の労働力でそれを継承して、個人でやっていこうというのは、なかなか難しいと思うんです。中山間の補助金等、いろいろものがあると思うんですが、そういったものを活用して、請負農業をやられる方が結構おられると思うので。そういった人に対しても応援をして、休耕田が少しでもなくなって、米が自給自足できるように活動力を上げてもらいたいと思いますが、いかがなものかとお聞きしたいと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。途中でも少し話をしましたが、米の値段が高いので、皆さんがつくっていただけるかなと思ったら、そうじゃないのが現状です。休耕田が増えていくというのも、矢上の座談会でも言われたんですが、羽須美に行ってもそうです。人の動きがなくなって見えなくなると寂しいと。散歩したり車で走っても、今までつくっていたのを辞められて、草が生えてきて、その草を誰も刈らないとなると、そこに人の動きが見えないので、廃れていくイメージが強くなる。田舎の田んぼはきちんとつくられているのが、皆さんの生きがいだったり、生活の糧なんだと思います。

先ほど、お話いただいたとおり、今までは集落営農ということで、集落単位で応援してきました。個人で辞められたところをカバーできるのは、集落の営農の方は、集落以外になかなか出ていけないので、広くできる人がいたということは、今まで町もそういう人たちを育ててきていなかったです。

改めて、言っていただいたとおり、皆さんの理解が得られるなら個人の農業者をきちんと育てていって、広くカバーしてもらえるような形が取れればと思います。その中で、先般お話があったのは、全てを自分が用意するのではなくて、「うちの田を使っていいよ」だけじゃなくて、「機械もあるので機会も使っていいよ」と言われれば、移動距離の負担が減って、その家の機会を使って作業をして帰れば済む。機械の運搬がなくてもいいという話があって。機械の運搬が一番大変なので、それを皆さんと協力できる部分は、町として拠点を持ちながら置いて、それを使ってやってもらって機会を大きく運搬しなくてもいい仕組みをつくれば、もう少し作業効率が良くなって一人当たりの面積が増やせるかと思います。

併せて、難しいかとは思いますが、今は田植えをしない仕組み、苗を植えるのではなくて、種を撒いて直接、芽を出してやるとか。そういうこともこの地域でも取り組める技術があれば、取り組んでいきながら作業不安を減らして、面積をカバーできる仕組みも考えていきたいと思います。

12月議会で農業の技術とは何だと言われたんだけど、そういう意味でこの地域ででき得る技術があれば取り入れながらやっていければと思います。

町の応援の仕方も経営に対してだけではなくて、若干、効率が悪くなくても、広く面積をしていただけるなら、それに対して応援するのもありかなと思っています。人に対してということで、皆さんの理解が得られれば、そういうこともしていければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 よろしいでしょうか。他にはございませんでしょうか。

ないようでしたら、終了を予定しており午後8時に間もなくなりますので、閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

本日は、ありがとうございました。いろいろな意見を頂戴しました。時間も限られておりましたので、まだまだ質問したいという方もいらっしゃるかもしれませんが、冒頭に町長が申しました町長への手紙というQRコードを読み込んでいただいて、お寄せいただいても結構ですし、その他に電話とかいろいろな方法で、ご質問等をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

町長の話の中にもありましたが、現在、町では令和7年度の当初予算の日程を進めております。さまざまな課題がある中での大屋町長による初めての予算編成になりますが、厳しい財政状況であるということもあります。毎年、予算編成の基本方針、重点項目を定めてそれに基づいて予算編成をするんですが、今年はその方針も財政再建ということで、そういうことから、非常に厳しい中での予算編成をいたしております。

現在、いろいろな事務事業の検証を行っておりまして、見直すところは見直していこうと。これは段階的に見直していくということも含めてであります。そういった姿勢で作業を進めております。こういった事務事業の見直しによりまして、少なからず町民の皆さんの生活や事業活動に影響をきたすことがあるかもしれませんが、しっかりとそこは、このような理由があって、こう変わるんだという説明をさせていただければと思います。

ご意見等につきましてもたくさん頂戴することになると思いますが、そういったことはしっかりと今後の参考にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、中長期的には、小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編を進めておりますが、こういったこともみなさんと情報を共有しながら、皆さんと協同という立場でしっかりと進めて参りたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、お仕事等でお疲れのところ、こうして夜遅くに集まっていただきました。お帰りの際には、交通安全に十分に注意して事故のないように気を付けて帰っていただければと思います。本日は、長時間にわたり、様々な意見をいただき、ありがとうございました。

●大賀総務課長 では、以上で閉会とさせていただきます。ありがとうございます。